

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
中期目標期間（平成24～29事業年度）の
業務実績に関する全体評価結果

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

評価結果と判断理由

評価結果

全体として中期計画の達成状況が良好である。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（達成状況が非常に優れている）、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（達成状況が良好である）であること。
- ② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、国際文化学科を国際総合学科へと改組したことをはじめ、各学科におけるコース制の導入・再編といった教育内容の改革を実施したことにより、大学の魅力の向上を図っていること。その結果、多様な手法による学生募集活動の効果も踏まえて、志願者数を増加させていること。
「入学者の受け入れ方針」に加え、「学位授与方針」、「教育課程の編成・実施方針」、「教育評価の方針」を定め、期待される学修成果を達成していくPDCAサイクルを確立するとともに、進路支援プログラムにより、平成26年度以降、就職率、進学率ともに中期計画に掲げる目標値90%以上を達成したこと。
平成30年度から全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」を実施することを、期間中に決定するなど、不断の大学改革を実施していること。
社会貢献活動においては、教員と学生によるサービ斯拉ーニング等の地域貢献活動が、公益財団法人大学基準協会の認証評価においても特色ある取り組みとして高く評価されたこと。また、新たに、県民向け専門講座「芸短オープンカレッジ」、通常の授業を一般社会人に開放する「公開授業」を開始し、大学の教育・研究活動を地域社会へと還元していること。
- ③ 「Ⅴその他業務運営に関する目標」に関して、平成27年度に「大分県立芸術文化短期大学キャンパス整備基本構想」を県と連携して策定し、仮校舎の建設（平成28年10月完成）、芸術デザイン棟の建設（平成29年11月完成）をはじめとするキャンパス整備を計画どおり実施するとともに、工事の施工に関して、学生の学修環境と安全確保に最大限配慮が図られていること。

<委員会からのコメント>

26年度以降、就職率・進学率ともに「90%以上」を達成され、素晴らしい実績を残している。そのためか、入試の志願者数も高水準を維持している。引き続き魅力ある大学へ向けて邁進してもらいたい。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
II 業務運営の改 善及び効率化	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
III 財務内容の改 善	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
IV 自己点検・評 価及び情報提供	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
V その他業務運 営	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
中期目標期間（平成24～29事業年度）の
業務実績に関する項目別評価結果
（大項目評価）

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、16項目（ウエイト考慮後23項目）の全てがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②平成25年度に国際文化学科を国際総合学科へと改組したことをはじめ、各学科におけるコース制の導入・再編、全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」の決定といった教育内容の改革を実施したこと。
- ③「入学者の受け入れ方針」に加え、「学位授与方針」、「教育課程の編成・実施方針」、「教育評価の方針」を定め、期待される学修成果を達成していくPDCAサイクルを確立し、方針とカリキュラムの整合性の点検を行い、各学科で教育内容の充実、指導体制の整備を図っていること。
- ④県民の学習ニーズに応えるため、半期（6ヶ月）を基本とする継続的学習が可能な専門講座「芸短オープンカレッジ」、通常の授業を一般社会人に開放する「公開授業」を開始したこと。
- ⑤教員・学生が積極的に地域に出向き、県内各種団体と協働した展覧会や演奏会、地域イベント等により、まちづくり活動や商店街の賑わい創出など、地域社会への貢献活動を実施したこと。
- ⑥公益財団法人大学基準協会の認証評価において「基準に適合している」と認定されるとともに、学科の特徴を生かした地域貢献活動を推進していることは、特色ある取組として高く評価されたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- 〔学科改組・コース再編〕
- ・国際文化学科を国際総合学科に改組するとともに、国際コミュニケーション、観光マネジメント、現代キャリアの3コース制とした。（25年度）
 - ・美術科のデザイン専攻をビジュアルデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザインの3コースに再編した。（25年度）
 - ・情報コミュニケーション学科に「心理スポーツ」「地域ビジネス」「情報メディア」の3コース制を導入した。（27年度）
 - ・専攻科造形専攻において、「特例適用専攻科」の認定を受け、学位取得に係る修了制作の審査を本学教員が行えるようにするとともに、美術、ビジュアルデザイン、メディアデザイン及びプロダクトデザインの4コース制に再編した。（27年度）
 - ・音楽科を6コース制（声楽、ピアノ、管弦打、指揮、理論、作曲）から、声楽、ピアノ、管弦打、音楽総合の4コース制に改編した。（28年度）
 - ・30年度に開設する音楽科「音楽総合コース」及び全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」並びに、31年度に新設するデザイン専攻「グラフィックアートコース」に対応するため、カリキュラムの見直し等を行い、コース再編・プログラム開設に向け体制を整備した。（29年度）
- 〔方針の策定、学修成果の把握等〕
- ・全学び各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カ

リキュラムポリシー)、教育評価の方針(アセスメントポリシー)を策定した。(25年度)

- 各学科で学修ポートフォリオによる成果把握を導入した。(26年度)
- 学修の評価指標を、①GPA、②総まとめ科目、③取得資格、④コンクール出場・受賞、⑤進路(就職・進学)、⑥授業評価、⑦卒業満足度、⑧ポートフォリオ(学修記録)の8つに整理し、成果をまとめた。(28年度)

○教育の実施体制

- FD(ファカルティ・ディベロップメント(教育に関する組織的改善活動))ミーティングを開催し、各学科の教育改善活動の取組報告、期待されるラーニング・アウトカムの策定説明、語学教育の成果報告、成績評価のあり方の意見交換などを実施、教育の質保証を推進した。(24~29年度)
- 入試広報の効果を教務学生部で分析し、入試委員会で検討した。高校別の志願者数を分析した上での高校訪問、動員数などのデータに基づいて選定した進学ガイダンスでの広報活動、志望校決定に影響力を持つ保護者向け説明会、Webを中心とした新たな広報媒体の活用、入試広報専門員によるきめ細やかな広報活動等、多様な手法による学生募集活動により志願者数が増加した。(28年度)

【志願者数の推移】

対象年度	25	26	27	28	29	30
志願者数	735人	788人	735人	894人	903人	870人

○学生への支援

- インターンシップへの参加促進や、学内企業合同説明会の開催など、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムによって学生への指導を行い、平成26年度以降は、就職率、進学率共に中期計画に掲げる目標値90%以上を達成した。(24~29年度)

【就職率・進学率の推移】

	24	25	26	27	28	29
就職率	89.7%	87.8%	92.7%	94.9%	98.4%	96.8%
進学率	89.9%	89.1%	95.7%	97.2%	98.2%	95.0%

○地域社会への貢献

- 従来型の単発的・短期的な公開講座を少なくする一方、半期(6ヶ月)を基本とし、継続的な学習が可能な専門講座を大幅に増やし、「芸短オープンカレッジ」として実施した。また、新たな取り組みとして、通常の授業を一般社会人にも開放する公開授業を開始した。(25年度)
- 県内各地域で行われる文化経済活動やまちづくりに学生が主体的に参加・実践するように指導を行った。また、サービ斯拉ーニングにおける学生の地域活動を一層活発化させ、学修の質の向上を図った。(24~29年度)

○国際交流の推進

- 江漢大学(中国武漢市)、東国大学(韓国)、釜山外国語大学(韓国)、クランタン大学(マレーシア)と新たに覚書や協定を締結した。特に、江漢大学からは留学生の受入れ、釜山外国語大学への芸術文化短期大学卒業生の編入学を継続して実施した(24~29年度)

○認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価

- 公益財団法人大学基準協会により平成29年3月22日に「短期大学基準に適合している」と認定された。

〔主な評価〕

- 基本目標の一つに社会貢献を掲げるとともに、社会連携・社会貢献に関する方針のもと、教職員と学生が協働しつつ、学科の特徴を生かした地域貢献活動(教育)を推進

していることは、特色ある取組として高く評価できる。加えて、各学科がそれぞれの特性を生かしながら、地域社会との連携を重視して教育活動を行っている。このような継続的な取組みは、「確かな専門性」を深め、「社会人基礎力」を養うとともに、「自己を活かす力」を涵養するという教育目標等の具体化であり、特色といえる。

- 各活動の検証を通じて、学科やコース制の再編、ポートフォリオの活用、「教員のメッセージ」を通じての学生との授業評価にかかるフィードバックシステムの改善、ファカルティ・ディベロップメント（FD）・スタッフ・ディベロップメント（SD）活動を通じての教職協働の試みなど、新たな取組みにも意欲的かつ継続的にチャレンジしていることは評価できる。
- 各活動の方針や取組みのもつ目的及び意味についての教職員、学生への学内周知については、なお取組みの途上にある。キャンパスの再整備を契機に、学長をはじめとするトップマネジメントと学内合意により、一貫して追求されている改善努力が大きな実を結ぶものと期待されることである。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施して いない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
教育	9 (4)			3	6 (4)
研究	4 (1)			2	2 (1)
社会貢献	3 (2)				3 (2)
合計	16 (7)			5	11 (7)
ウエイト考慮 後の合計	23			5	18

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、16項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 適正な学科改組・コース再編の結果、志願者数の増加や就職率、進学率の向上に繋がったと評価できる。
- 教育の質の向上に向け、持続的な環境整備やコース改編、カリキュラム整備を続けながら、教育内容の充実や指導体制の整備等が積極的に図られており、今後へ向けた成果が期待される。
- 地域社会へ貢献・還元する公開授業、公開講座等は素晴らしい活動である。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、7項目（ウエイト考慮後8項目）のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②理事長のリーダーシップのもと、産業界、文化関係等の外部役員や経営審議会委員の意見を積極的に取り入れながら、各学科コース再編等の大学改革を推進したこと。
- ③人事の適正化に向けて教員評価制度を改めるとともに、学科の改組、各学科におけるコース制の導入・再編、教職課程への対応に向けて、限られた定員の中で必要となる教員を確保したこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 運営体制
- ・観光業、産業界、社会福祉事業、デザイン産業や地域文化に関わりの深い文化関係者を理事や経営審議会委員に任命し、様々な分野からの意見を大学運営に取り入れた。（24～29年度）
- 人事の適正化
- ・教員評価制度を2段階評価方式（自己評価に基づく評価委員会合議評価）から3段階（学科長、学内理事、学長）に改めたことで、評価の客観性と妥当性が向上した。（24年度）
- 業務の選択と集中
- ・国際文化学科を国際総合学科に改組することに伴い、新たなカリキュラムに対応した教員3名を採用した。美術科デザイン専攻コースで新たなカリキュラムに対応した教員1名を採用した。（25年度）
 - ・中学校教諭一種免許が取得可能な教職課程にすることなど、本学の教育目的が達成されるよう、美術科教職課程担当、音楽科教育法担当として教員2名を採用するとともに、情報コミュニケーション学科の広報・宣伝論の専任教員等、新たな展開に対応できる教員4名の採用を決定した。（29年度）

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施してい ない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			3	
業務の選択と集中	1 (1)				1 (1)
合計	7 (1)			6	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	8			6	2

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目（ウエイト考慮後9項目）のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
 ②公開講座及び公開授業の実施により、自己収入を増加に努めたこと。
 ③キャンパス整備事業について、国の交付金事業を活用し、財源の確保に努めたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己収入及び外部資金の獲得
- ・公開講座及び公開授業の講習料、受講料等のあり方を「地域貢献・生涯学習委員会」で検討し、それぞれ適正な料金、回数を設定した。ホームページや新聞折り込み広告等で広くPRすることにより受講生を募り、自己収入の増加に努めた。（25～29年度）
 - ・芸術デザイン棟整備事業が「クリエイティブ産業創出拠点整備計画」として、内閣府の地方創生拠点整備交付金対象事業に指定され、事業費の1/2、4億6千万円が国から交付されることとなった。（28年度）
- 資産の適正管理・有効活用
- ・平成26年10月から大学研究紀要を、国立情報科学研究所が提供するJAIRO-Cloudを活用して公開しており、登録論文数は822件、ダウンロード件数も3年半の累計で15万4千件、内、平成29年度は9万6千件と前年度の3万2千件から大幅な増となった。（26～29年度）

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施してい ない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	2			2	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3(1)			2(1)	1
資産の適正管 理・有効活用	3			2	1
合 計	8(1)			6(1)	2
ウエイト考慮 後の合計	9			7	2

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 28年度に芸術デザイン棟整備事業が、交付金対象事業に指定され、4億6千万円が国から交付されることとなったのも、24年度からの情報提供や研修会をはじめとする外部資金獲得の意識付けの結果と評価できる。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、3項目（ウエイト考慮後4項目）のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②自己点検及び自己評価を組織的に実施し、第三者機関における認証評価も適切に受審したこと。
- ③各種広報媒体の活用を進めるとともに、統一イメージによる情報発信を進めたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
 - ・年度計画検討委員会を設け、毎年、事業年度計画の点検・評価を実施するとともに、平成28年度に（公財）大学基準協会の認証評価を受審し、「基準に適合している」との認定を受けた。（24～29年度）
- 情報公開や情報発信の推進
 - ・大学あるいは各学科で取り組んでいる教育研究活動や成果、地域貢献活動等を、大学ホームページ及び各学科のFacebook、広報誌等において積極的に情報発信している。（24～29年度）
 - ・OGであるイラストレーターがデザインした大学案内が好評価を得ていることから、他の印刷物等にも活用し、継続的に統一イメージでPRすることとした。（27～29年度）

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施してい ない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	1				1
情報公開・ 情報発信	2(1)			1	1(1)
合 計	3(1)			1	2(1)
ウエイト考慮 後の合計	4			1	3

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 非常に 優れている	A 良好である	B おおむね 良好である	C 不十分 である	D 重大な改善 事項がある
------	-------------------	------------	--------------------	-----------------	---------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、5項目（ウエイト考慮後6項目）のすべてがⅢ（十分に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②「大分県立芸術文化短期大学キャンパス整備基本構想」を基に、キャンパス整備を計画的に実施するとともに、学生の学修環境と安全確保に最大限配慮していること。
- ③地震発生時等の安否確認の徹底、確認方法の見直しを図っていること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
- ・「大分県立芸術文化短期大学キャンパス整備基本構想」を県と連携して策定するとともに、キャンパス整備基本設計を行う設計者を選定、基本設計を完了した。（27年度）
 - ・仮校舎の建設（平成28年10月完成）、芸術デザイン棟の建設（平成29年11月完成）をはじめ、校舎間の引越しやインターネット環境の確保など、キャンパス整備を計画どおり実施した。（28～29年度）
- 大学の安全管理
- ・入学試験中の災害対応マニュアルを改訂した。（24年度）
 - ・熊本地震の発生を受けて、平成28年度に安否情報の集約、今後の地震対応（震度別）、火元及び残留者なしの確認を徹底するとともに、平成29年度は学生の安否情報の確認ルートについて再検討し、担任による安否確認に加え、メールによる直接確認を行うこととした。（28～29年度）
 - ・キャンパス整備において、大学と県、大分市、設計者、監理者、施工者、芸術緑丘高校など工事関係者が参加する工事定例会や総合安全衛生協議会、大学関係者で構成する安全管理調整会議や教授会での周知等により、事業関係者で綿密に連携しながら、事業を安全かつ着実に実施した。工事の施工に際しては、進捗状況や歩道・迂回路の表示、学内徐行の徹底、休日利用による騒音対策など、学生の学修環境と安全確保に最大限配慮した。（29年度）

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に 実施して いない	III 十分に 実施して いる	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1 (1)				1 (1)
安全管理	2			2	
人権啓発推進	2			2	
合計	5 (1)			4	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	6			4	2

(注) 1 ()は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（達成状況が良好である）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし
